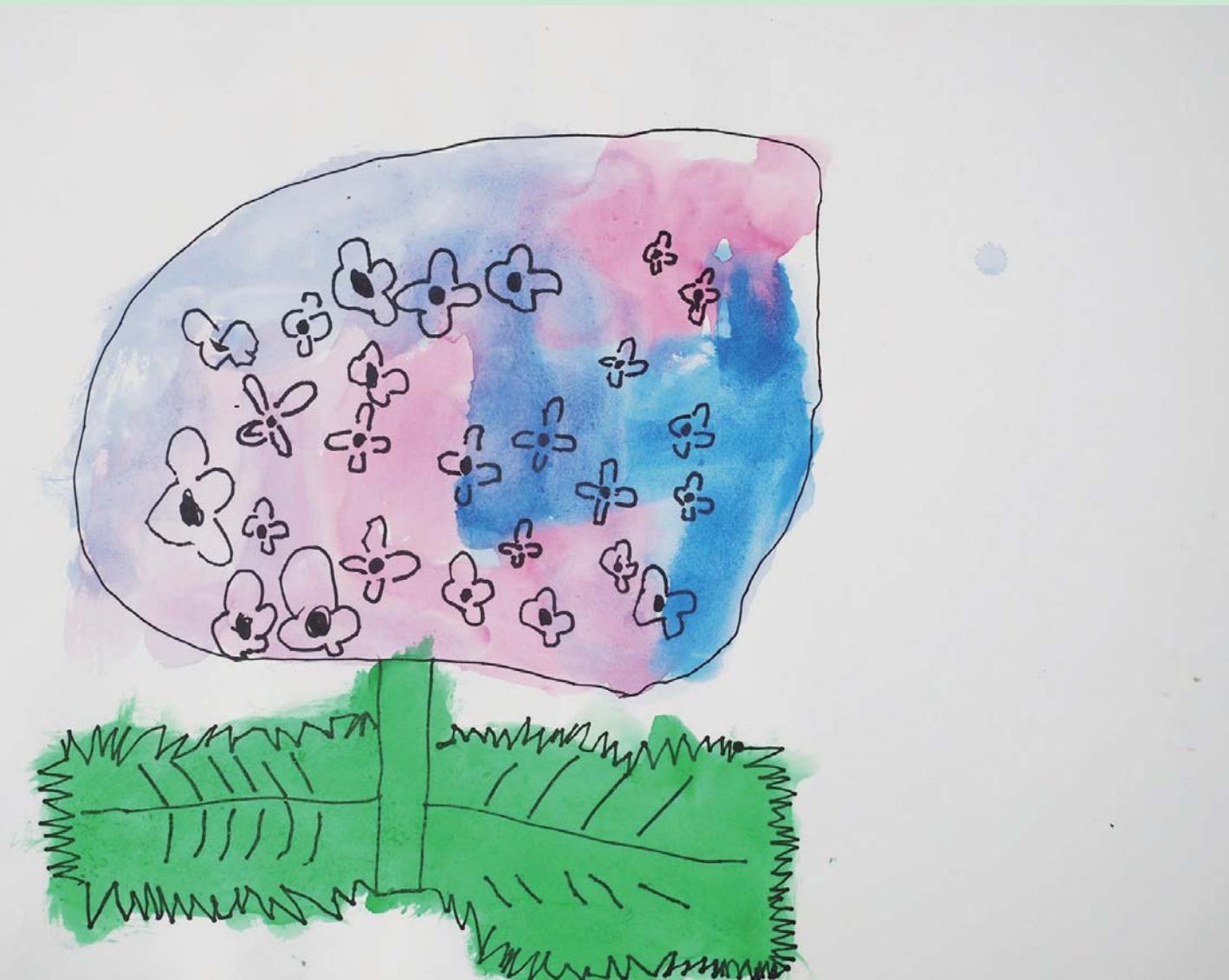


# Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン



2021年6月号 No.371

# Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

2021年6月号 No.371

表紙 「あじさい」

すずき だいき [ルンビニ幼稚園]

Shinran  
S50<sup>th</sup>  
S800<sup>th</sup>

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2021年6月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員

総編集長：本田 彰一（東京1）

チーフ：朝倉 俊隆（東京5）

佐々木誠信（東京4）五島 大地（東京8）中村 晃（茨城1）大山 信敬（茨城2）

チーフ：田上 翼（茨城1）

坂東 性悦（東京2）平松 正宣（東京3）櫻田 純（東京6）秦 顯生（湘南）

チーフ：鶴川 卓史（湘南）

内藤 友樹（東京1）渡邊 尚康（東京3）田宮 真人（東京8）相馬 法道（茨城1）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会

〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館

TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

# もくじ

特集

- 03 真宗会館 30周年

- 11 法語ポスター

教区教化通信 研修部門

- 12 秋安居報告②

教区教化通信 「同和」協議会

坂上 雅弘

- 13 第2回部落問題基礎講座を受けて 小笠原 翔

教区教化通信 教学館

- 14 私の出遇った言葉

長尾 朋聰

教区教化通信 大谷保育協会

- 15 子育ての大地

渡辺 正法

はい！こちら真宗会館です

- 16 駐在日記

佐々木 弘明

はい！こちら真宗会館です

- 17 所員のつぶやき

菴原 宏行

はい！こちら真宗会館です

真宗会館

- 18 みんなのヨリドコロプロジェクト

- 19 敬弔・涌

内藤 友樹



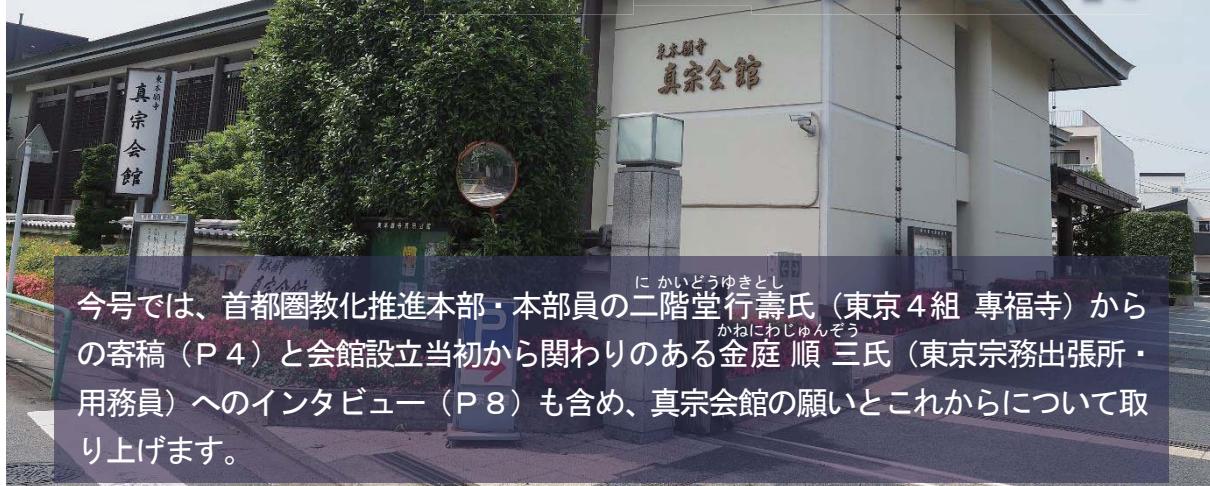
—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ) —

 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

# 東本願寺「真宗会館」

## 設立30周年特集



↑「首都圏教化の拠点」への期待を新たに、真宗会館落慶法要（1989年11月）には多くの参詣者が集いました。

東本願寺「真宗会館」が東京練馬の地に完成したのは1989年11月。それまでも首都圏教化や、都市開教の在り方を問い合わせてきた中で生まれてきた聞法の拠点であります。

10周年では一つの区切りとして、2002年に首都圏教化推進本部が設置され、聞法の場を拡げ、首都圏在住門徒への広報誌発送ほか、開教への理解を求める活動が進められました。

20周年においては、「真宗への縁づくり」「回心する人を生み出す場の創造」「寺と門徒との日常的繋がりを回復する」の三つを基軸に、様々な取り組みによって受け皿としての場も作られました。真宗会館を縁とした在住門徒とのつながり、離郷門徒との関係性づくり、寺族の育成等を継続的に行うことで寺院に還元されていくようなはたらきを担つていきました。

そして30周年を迎える、今般の新型コロナウイルス感染状況も相まって、仏事や家族の在り方が多様化し、教との相続が困難な状況になってきています。主たる目的として、聞法道場としての真宗寺院であることを外すことなく、その場が真の「よりどころ」としての役割を担いながらも、宗門全体を取り巻く環境が厳しさを増すなか、蓄積した経験値を宗門内へ還元する意識と手立てが、真宗会館を中心とした教区教化委員会、首都圏教化推進本部の事業に期待されています。

## 真宗会館の願い

首都圏教化推進本部・本部員

二階堂 行壽(東京4組 専福寺)



「真宗会館」が設立されたとき、私は31歳でした。ですから実感として、東京別院離脱の問題や真宗会館の設立への当初の願いが分かっているとは言えません。しかし、当時、先輩方に教区の会議やその後の席にたびたび一緒させていただき、お酒を飲ませていただいているなかで、その思いの熱さを少しづつ肌で感じるようなことはありました。ですから、今となって改めて、そこで感じてきたことを申し上げるようになります。

さて、誌面の関係もありますので、離脱問題から真宗会館設立の前後の教区教化委員会

と関係があると私が感じている象徴的などとを二点だけ申し上げます。一つ目は「教区報恩講」、二つ目は教区教化委員会の中にあつた「開教部門」と「教化研究部門」のことです。

一つ目の「教区報恩講」は、別院の離脱を機に勤められるようになったのですが、先輩にお聞きすると、それまで別院の報恩講へ

の教区人の出仕や参詣はそう多くはなかつたようでした。教区問題の東京での象徴的事件が別院の離脱なわけですが、そのことで“教団”ということをどう考えるのかが、具体的に教区人に投げかけられたのでしょう。それは、サンガということや、またそれらが集う

具体的な場所、また教団ということをどう考

えるかです。「報恩講教団」ということが言われるわけですが、「教区としての報恩講」を勤めるということを通して教団といふことを通しながら、教団といふことに向き合おうとされてきたのではないかと感じます。別院は全国にあり、ある意味では、別院があるということを当たり前にしてきた

さてもう一つは、教化委員会の中にある「開教部門」と「教化研究部門」です。

「開教部門」は、当時、単身で開教活動をされていた開教者の方々を少しずつ繋げ、その繋がっていく地盤を作るような動きから始まつたように思います。そして、それは今のが大谷派開教者会」設立に繋がっていきました。「開教」というと、既存の寺院には関係ないようになりますが、仏事、特に葬儀の現場を考えると、首都圏での執行は共にその現場を担っているわけです。既存寺院より厳しく、また大きく変化する現場に置かれてい

めているのは、全国でも数少ないと思います。最初は真宗会館設立の前ですから、東上野の坂東報恩寺で勤められたわけですが、法主（当時）も輪番もないなか、平座で勤めようという考えが、その後の真宗会館の講堂の形式にもなつていったのだと思います。

真宗会館設立後には、真宗会館報恩講という話が持ち上り、私もそのように考えた時期もありました。しかし、単に場所としての意味を超えて、サンガという問題や、教区・教団、そしてそれを考えうことへの表明が、教区問題を通して教区人が「教区報恩講」という名で勤めてきた意味を感じます。

さてもう一つは、教化委員会の中にある「開教部門」と「教化研究部門」です。

「開教部門」は、当時、単身で開教活動をされていた開教者の方々を少しずつ繋げ、その繋がっていく地盤を作るような動きから始まつたように思います。そして、それは今のが大谷派開教者会」設立に繋がっていきました。「開教」というと、既存の寺院には関係ないようになりますが、仏事、特に葬儀の現場を考えると、首都圏での執行は共にその

る開教の方々とともに仏事の現場を考えること、とは、首都圏での仏事のこれからを考えていいく上で、当時から大事なことであつたかのように感じます。

現在のますます簡素化が進む仏事事情を考えると、これはすべての寺院が厳しく置かれている状況だと思います。そしてこれは単に仏事・葬儀の問題だけではなく、「寺という場」を今後どう考えていくかということにも繋がります。もし、これから寺院を建立しようと

するなら、どういう寺の在り方を描いていくのか。これは、今、建立をせずとも、既存の寺院も向き合つていかなければならない課題です。これが「開教」という部門が教区に置かれていた願いではなかつたかと思つています。

もう一つは「教化研究部門」です。これも真宗会館設立当初は、「開教」の問題といつて良いのではないかと思います。その象徴的な事業が、光が丘団地での「子育て」を課題と

地域に認知されていない中、一般の方々の抱える問題に焦点をおき、それにどう真宗・念佛が向き合つていくのかを課題としていたと思います。そして、この前の動きにおいても

今の首都圏教化推進本部で行つてある「講座」は教区駐在教導さんが発想し、教化委員会の事業として行われてきました。

この二つの部門が担つていた役割については、現在は、首都圏教化推進本部の中に位置づけられるものとなっていますが、改めて考へると、「開教」＝「教えを開く」という意味では、教区の寺院、否、すべての寺院が、いま向き合つていかなければならぬ事柄であると思つています。

これらのこと、当時、象徴的な言葉として、「真宗会館は実験の場」と先輩方が言つてきたのではなかつたのかと思ひます。人々が集うというその場をどう考え、真宗・念佛をどう発信していくのか、常に手探りで向き合つていくことが、「場を失う」という離脱問題を契機に、改めて具体的に問われてきたときの言葉ではないかと思ひます。

『教化研究』（151号特集「同朋会運動の願いに学ぶ」）に、渡邊晃純氏（岡崎教区守綱寺）が、蓮如上人のお待ち受け大会でブラジルへ派遣されたとき感じられたことを書かれています。「ブラジルは、ポルトガル語の開教区だということを聞き、そうすると、日本は親鸞聖人が明らかにされた南無阿弥陀仏の

教えにとつては、日本語の通じる開教区であると言つてよいのではないかと教えられました。

なぜなら、本願と言い、成仏と言い、念佛と言つても、今の日本では言葉の本来の意味を受け止めているとは言えません。その意味で、日本は、親鸞聖人の教えにとつて日本語の通じる開教区である、そこから出発すべきだと思ひました」と。

「開教」という言葉は、既存寺院にとつては遠い言葉のように思ひますが、あらためて大切にしなければならない精神だと思つています。

※首都圏教化推進本部の取り組みは、『東本願寺「真宗会館」設立30周年－「首都圏教化将来構想」の総括とこれから展望－』（2020年各寺院へ送付）をご覧ください。また、1月29日開催の「30周年記念式典」の記録誌が今夏、発行されます。記念誌には木越康氏（大谷大学学長）の記念講演の他、一階堂行壽氏、本田彰一氏（東京1組本明寺）の課題提起、当時を知る住職による別院離脱から会館設立までを振り返る座談会などが収録予定。



真宗会館建設工事

報恩講週間では、チャリティー  
バザーが行われ賑わいを見せた

今とはまた雰囲気の違う帰敬式

蓮如上人御遠忌法要中、別館  
では宝物の展示会を開催

2001年大雪の報恩講

## 真宗会館の歩み

年表と写真で振り返る

年	月	主な出来事
1981	6	東京都「東京本願寺」離脱承認
1983	1	別院離脱を機に教区報恩講勤まる(東京2組・報恩寺)
1987	7	教化施設の名称を、東本願寺「真宗会館」と決定
1988	4	「真宗会館」起工式
	12	「真宗会館」での教化を検討するため、教区教化委員会に5プロジェクトチーム(教化研究・会館研修・儀式・開教・広報出版)を発足
1989	4	「真宗会館」上棟式
	10	「真宗会館」遷仏式 西福寺(東京5組)よりご本尊をお迎えする
	11	「真宗会館」落慶記念式典
	12	「日曜礼拝」始まる
1990	2	初めて真宗会館で教区報恩講勤まる
	8	『ネットワーク9』創刊
1992	11	親鸞聖人行脚像除幕式
1993	1	首都圏広報誌『サンガ』創刊
1994	7	教化委員会体制改編／首都圏教化部門が東京宗務出張所に移行
1995	10	蓮如上人500回御遠忌お待ち受け大会開催
1998	1	「首都圏大谷派開教者会」報恩講始まる
1999	1	東京教区蓮如上人500回御遠忌法要兼報恩講厳修
2000	1	「真宗会館」設立10周年

年	月	主な出来事
2002	7	首都圏教化推進本部を設置「真宗会館部門」「教化・広報企画部門」「開教部門」の3部門体制となる
2007	5	「真宗会館」役宅竣工式
2010	1	「真宗会館」設立20周年
	1	宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け法要兼報恩講厳修
2011	2	「首都圏大谷派開教者会」設立20周年 宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け法要兼報恩講厳修
	10	教区内有志による「御遠忌と大震災を考える集い」を開催
2012	10	「東京真宗同朋の会」設立50周年記念式典兼報恩講厳修
2013	1	東京教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要厳修
2014	4	教区「子どもごえんき」厳修
2015	4	地域開放事業「ねりまこども食堂」始まる
2016	3	「3.11のつどい」始まる
2017	2	「首都圏大谷派開教者会」設立25周年 宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要厳修
	9	真宗会館ロゴマークをリニューアル
2020	1	「真宗会館」設立30周年
	4	30周年を機縁とした「みんなのヨリドコロプロジェクト」始まる

### 【参考文献】

#### ▼『東京教区史』

(東京教区教化委員会・教区史編纂委員会)

#### ▼『東本願寺「真宗会館」設立30周年—「首都圏教化将来構想」の総括とこれからの展望—』

(真宗大谷派首都圏教化推進本部)



宗祖親鸞聖人750回  
御遠忌法要



子どもごえんき



有志による行事も大切な教化の場に。「御遠忌と大震災を考えるつどい」



報恩講では毎年、同朋社会推進ネットワークにより、お汁粉など振る舞われている



「こども食堂」など、近隣地域への活動の場も提供している

# 教えて金庭さん！

Q1 どうして  
用務員に？



金庭 順三  
昭和31年生まれ。東京1組・  
願龍寺衆徒。真宗会館の設立  
当初より用務員として勤務。

私は群馬県下仁田町出身で、大学卒業後に杉並区にある不動産会社へ入社しました。その社長が熱心な門徒で、会社で毎月聞法会を開いていました。その内、私があんまり真剣に聴聞するものだから、先生から「僧侶にならないか？」と大谷専修学院を紹介されました。興味本位のような軽い気持ちで昭和61年に入学し、卒業後は再び会社に戻って仕事を続けていました。

1年ほど経った頃、前述の先生に「練馬に教化施設ができるから、来ないか？」と誘われ、浅草の教務所で面接を受けました。会館は平成元年11月に落慶し、私自身は12月1日に着任しました。私が33歳の時のことでです。

みなさんは私が会館で働き始めた動機を知りたいのかも知れませんが、行き当たりばつたりで生きてきたので、恥ずかしながら立派なきっかけなどありましたでした。

1階中庭は金庭さんの好きな場所のひとつ



日常を忘れ、自己を見つめられる  
場所になってほしいと願われる



今日も何処かで真宗会館を支えてくれています

Q2 どんな出遇いが  
ありましたか？



着任してすぐ、「日曜礼拝」が始まつて、いきなり司会を担当しなくてはならず、遠く緊張したのを覚えていました。最初は十数名だった参加者も、「サンガ」を新聞折り込みに入れると、徐々に増えていました。会館に勤め始めた頃の新鮮な気持ちに戻りたいなと日々思つてます。この30年間、多くの先生方から単に教説的なことだけではなく、「万向性」をいたしました。東京真宗同朋の会の門徒さんにも、随分とお世話になったというか、鍛えられましたね。私の人格は、真宗会館において形成されたと言つてもいいでしよう。

特に印象に残つている出来事は、東日本大震災の時に会館を開放して、被災された方々に1ヶ月以上お泊りいただいたことです。この「コロナ禍」という厳しい状況も、恐らく数十年後に振り返れば、「真宗会館が経験した出来事」の中で、最も大きなものの一つになるのではなうでしょうか。

## Q3

お仕事をする上で  
心がけていることは?



「いつも・誰が・どうして・何をしつづけるか」を常に意識して働いています。特に今は、自分が直接関係のないリモートでの会議や行事がたくさんあるので、スケジュールを見て全体の動きを把握するところが必要です。その上で、「誰かがやらなければならぬ仕事」を見つけて業務に当たつていらっしゃる用務員の仕事だと思っています。

また、基本的にバタバタと駆け回つてしまふ私ですが、御本尊の前では無作法な」とがないうちに注意します。自分が思つてらる以上に、門徒さんはよく見ておられるので、講堂での所作には気を付けていますね。

「教化」とこの面で私は出来れる仕事は、如来さんに自分を見せていたら、「奥の所とは何か」を自覚するこただけだと思つのです。ですから私はただ、来館された方が帰られた際、「やつ一回来たいな」と感じてもらえるような対応を心がけております。



コロナ対策もしっかりとやってます!



別館2階の広間の活用を!



教区報恩講の際、ここで音響を操作をしている金庭さんを見ると「ああ、報恩講だな」と感じます

## Q4

オススメの場所は  
どこですか?



別館ですね。ただ、別館には電話などの有線は配備されていませんが、インターネット設備がありますから。現在、出張所内では「ココロ・ダイアル」の関係で、リモートが可能な環境を作りつつこうした話が進んでいます。

別館は最近3年がかりで改修を行ない、シャワールームが完備されたばかり。2階の大きな部屋は大会議室くらいのスペースがありますから、テレビを使用して研修会や会議を開くことも出来ますね。

これは私個人の考え方ですが、別館に新たな事務所を設けてみてもらいたいと思います。ネット環境さえ整えば、そういう様々な形での活用方法が見えていくのではないかと期待しています。

Q  
5

これからのお念仏会館が  
どんな場所になつてほしいと思いますか？



### 編集感想



「お念仏の声が聞こえぬ場所」であつてほしこと願つてゐます。真宗会館は、浅草の別院が離脱したあと、首都圏教化の新拠点として設立された「教化施設」ですから。それが私が来た頃の会館は、自然にお念仏が聞こえていた場所でした。

会館では現在、地域への取り組みとして、子供も食堂や色々な教室が開かれていました。確かに、多様な人たちに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。確かに、多様な人たたに集まつてもうつす。

しかし私がお念仏を申す場所に、私たちが共存してこられたものは、そこしかありませんからね。30年間、文字通り止まることなく走り続けて来ました。私は田先のじとしか考えない人間なので、自分が振り返るのもあらせんでした。ですから、今回この取材をお受けするにあたり、これまでのじとを振り返ること機会をつかんでいただけたと感じています。

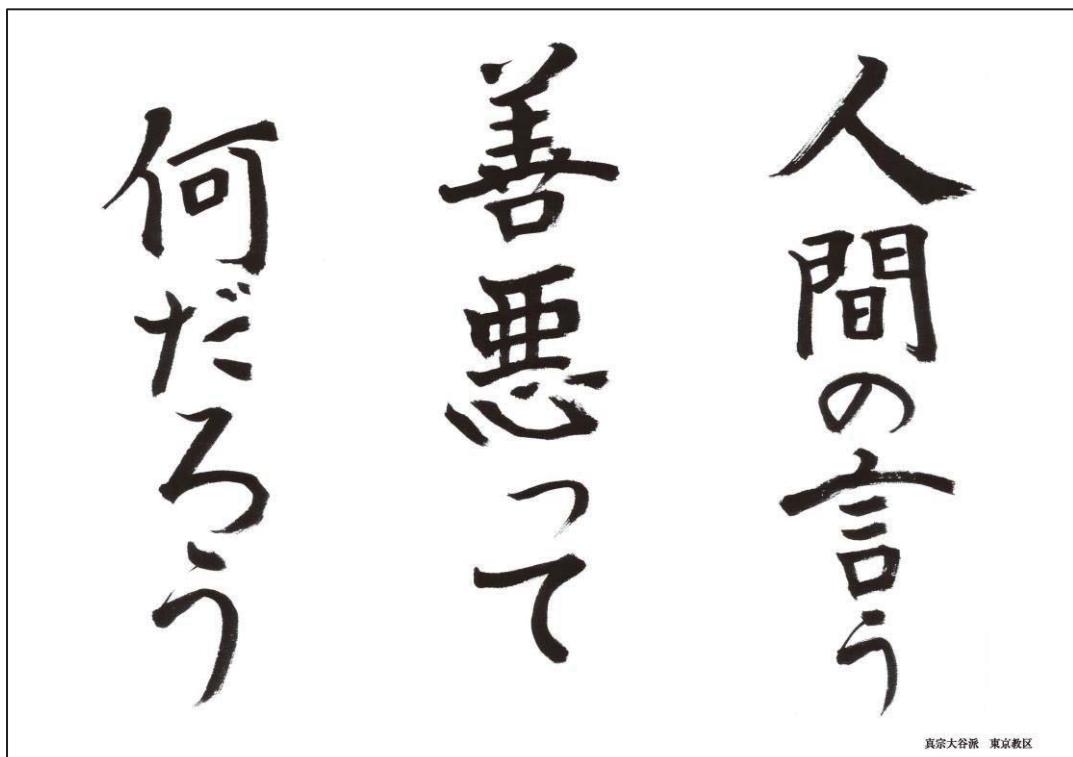
この先も、体が動く限り、会館の設立に携わった先人たちの首都圏教化の精神を絶やさぬよう大切に受け継がながら、教化活動に取り組んでいきたいと思つてます。これから生きてくる人が、田舎の

私は取扱いをやめた、金庭さんによれば、「会館の備品等を管理する用務員」との認識しかありませんでした。教区会館や教区報恩講、NPOの編集作業等で会館を使用するひとは、いつもだが、金庭さんと実際に関わったことは、教区報恩講での交換パートのみでした。そのため、普段ひんぱん仕事をしていくのかは知りません。

今回取材をしたじとで初めて、教師資格を持つてこられた、30年以上勤めてこられた用務だけではなくて法務も務めてこられたを知り、驚きの連続でした。また、真宗会館を「教化施設」として大切に思つておひ、来館された方に「やつ一回来たいな」と感じてもうつすよつと微笑つてこねと聞いて、感謝を教けました。

新型コロナの影響で法要が少なくなつて、会館に来られる人も減少してこなかも知れません。しかし、「教化施設」として大切に思つていう方が一人でもこな限り、これからも無くてはならない場所じと、この地にありますことを思つます。（鞠川班 相馬 法道）

# 今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)  
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。  
詳細は東京教務所まで。

## 秋安居

講題：「摂大乗論第十章彼果智分の考究」

第一回 講義テーマ「摂大乗とは何か」  
講師：宮下 晴輝 師（2019年度 本山安居次講 講者）

### ●大乗非仏説論への応答

大乗經典が成立したとされる紀元後一世紀は仏陀入滅後約500年となる。そうすると大乗經典は仏語（仏説）であるかという問題が生ずる。いわゆる大乗非仏説論に対しても、『摂大乗論』はその応答をもつて大乗は眞の仏語であるということを顕かにするために作成された。

『摂大乗論』は序文で「この所説の經言は大乗が仏陀の言葉であることを明言している」と言い、『大乗莊嚴經論』（以下『莊嚴經論』）を踏襲している。『大乘莊嚴經論』第一章第七偈には大乗が仏語である人の理由として

- (1)前もつて予言されていないから
- (2)同じく起こっているのであるから
- (3)（異教徒の）対象領域ではないから
- (4)（仏語であることは）成立しているから
- (5)（有であると無であるとにおいて有であるのではないから
- (6)対治するものではないから
- (7)字音とは別であるから
- (8)字音とは別であるから

### ●法性に背反しない

声聞乗側の結集伝承として伝えられる阿含經の法性は一貫して「生起と消滅の縁起」の教説を本質とする。対して大乗側は「一切法

からの非難を想定し、それに応答する形で大乗は仏語であると示すものであり、仏語とは何かという本質にかかわった応答ではないと思わざるを得ない。

さらに『莊嚴經論』第十一偈において、仏語の定義をめぐっての議論に際し、

(1)自己の経にはいつているから

(2)まさに自己の律において見られるから

(3)広大でもあり甚深もあるから法性に背反することがない

と、新たに三の理由を挙げ、仏語であることと確認しようとする。この(1)、(2)は、やはり論難を避けるための応答となるが、(3)は仏語の本質に關係するものと思われる。『摂大乗論』は十の殊勝性（別号詳細）によつて大菩提を引き起こすということであり、法性に背反しないということころで應えていこうとした論であると考えていくことが出来る。

### ●新たな如是我聞

法性的問題を単純に並べてしまえば、声聞乗と大乗の法性的違いを論ずるのみで終わってしまう。そうではなく、ここに新たな釈尊觀が生まれたということを見ていかなければならぬ。阿含經の法性を背景とした釈尊がおられたが、阿含經の教えを聞いた人がその教えに對してどういう向き合い方をするのか、ということが自己の歩みの中で問われてきた。大乗仏教が出現せざるを得なかつた危機的な問題、課題があつたのだと了解する必要がある。阿含經における法性がなくなつてゐるわけではなく、それが大前提の上で自分自身に起こつてきた問題をもう一度仏陀釈尊にお会いして尋ねていこうとする切実な思いが新たな教説を如是我聞としたという形で經典が生まれてくるということである。

## 『第2回部落問題基礎講座を受けて』

### 茨城1組 應順寺 坂上 雅弘

去る3月12日、解放運動推進本部・本部委員の阪本仁氏を講師に迎え講義が開催された。

本年2月に逝去された小森龍邦氏（部落解放同盟広島県連合会顧問）の残された言葉を基にお話し頂きました。

小森氏の言葉として『觀經』の「是旃陀羅」の説教部分は、被差別者にとっては、やりきれないほど心に痛みを感じる。心が痛いと嘆かれていています。阪本氏は教団も僧侶も、長い間差別者の声を聞いてこなかつた。「是旃陀羅」という言葉に過酷な差別があることに気付けていない。そこには人がいる。しいたげられている人達がいる。「人の痛み」を長きに渡り「放擲」してきましたと指摘されています。

かれている。「苦惱を除く法」を解き明かす『觀經』の中で、旃陀羅は現時点においても救われてはいないのである。私自身も『觀經』 자체をいつの間にか権威化し、そこに隠れる重大な問題を見過ごしてきたのではないかと思う。

阪本氏は、「昨今、經典ありきの絶対視が進んでいる」と説かれる。「經典は間違っていると言いつ切れるのか」という批判的な視点・姿勢が唯一変われる因となる。差別を克服するには「解る」ことが何より大事で、解るとは「変わる」ということと指摘されていたことが印象的でした。

子供の頃、悪気はなく友達に言つたことで相手を傷つけてしまったということや、逆に言われて傷ついたことなどを思い返してみると、私たちはそういうものを見えようと思つてもいらないのに、見えている存在なのだと感じます。講義の中にもあつたように、「知らないではすまされない」と感じる人が同じ世界にいるということを知つておられる必要があるのだろうと思います。知つた「つもり」になり、言動が伴わないことがある私ですが、改めて言葉の成り立ちや、歴史の重要性を考えさせられています。

今回、初めて部落問題基礎講座に参加させていただきました。お話しの中で「ソーシャルディスタンス」という言葉について触れら

### 東京8組 源通寺 小笠原 翔

れました。新型コロナウイルス感染拡大から毎日のように耳にし、口にしていた言葉です。この言葉が、アウトカーストとされる人たちが、かつてヒンドゥー教徒の人たちから社会的に排除を受けてきた状況を指す言葉だということを初めて知りました。これには驚いたと共に、私の知識の無さを恥じ、また言葉の危うさということに気が付かされた思ひです。普段何気なく使つてている言葉でも、知らず知らずのうちに差別に繋がっている」とがあるのだと思います。

ささらに小森氏は『觀經』の中で、「韋提希も阿闍世も救われているが旃陀羅は救われていない（長浜教区・第2回解放特伝より）」と嘆

# 私が出遇つた言葉

千葉組 即隨寺 長尾 明聰



## ゾロアスター教 —善の側に立つか悪の側に立つかの選択—

静岡文化芸術大学の青木健先生に「ゾロアスター教と古代ペルシアの文明」について講義いただいた。私はゾロアスター教がどのような教義を説いているかについて全く存知ていなかった。ゾロアスター教と自分とは何の接点もないと思っていたのである。しかし、青木先生からゾロアスター教の先祖慰靈（ラワシ）信仰が孟蘭盆会に影響しているといふことや、今回考えていく善悪二元論の話を聞き、その思いは覆された。

ゾロアスター教の善悪二元論とは、青木先生によれば「ザラシュトラが倫理的徳目を前面に押し出して原始アーリア人の神々を再編成し、アフラ神群を神や天使の座に留めて善なる神々とした一方で、ダエーヴア神群を神々の座から堕とし、それらを宗教史的に新

しい概念である「悪魔」と見做した、「善なる神々に対決する悪魔たち」の「二元論」である。このように世界を善と悪の闘争で構成されると捉えたザラシュトラは、その世界に生まれた人々に「善の側に立つか悪の側に立つか」を各々が自由意志でもつて選択せよと言うのである。もちろん最終的に善の側が勝利するように奉仕するべきだというのがザラシュトラの主張ではあるが、善の陣営に立つて戦うか悪の陣営に立つて戦うかを選択し貢献することに人間としてこの世に生まれた意義があるのでと言うのである。

第22回 教学館月例研修会（オンライン開催）  
2021年4月7日～8日

基調講義・休講

特別講義・「ゾロアスター教と

古代ペルシアの文明」

青木 健氏（静岡文化芸術大学）



## 当たり前について考える

利正寺保育園は横浜市にある保育所です。昨年からの新型コロナウイルスの流行により、保育の在り方が全く別のものになりました。見えないウイルスへの感染防止のために、食事にはパーテーションが不可欠となり、毎日の消毒作業が日々の業務の大半を占めるようになりました。人との接触からの感染を考慮し、中止にした行事も多数ありました。



こうした変化からコロナ以前の保育を振り返った時、人との触れ合い・繋がりがいかに大切か、そして、それを当たり前のように享受していたことへの気づきがありました。

当たり前という字は「当然」という意味合いだそうです。精選番『日本国語大辞典』では「その事柄が、どう考えても疑問の余地のないさまを表す語」という意味があると書かれています。「どう考えても疑問の余地のない」ことが破られるということは、当たり前だと決めつけていた「自分のものの見方」がひっくり返る事に他なりません。

ちょうど花まつりの時期にこの原稿を書いています。本堂で子ども達と花まつりを勤める中で、天の上にも下にも君たち一人一人がとても尊い存在であること。今生きている中で、たくさんの人々に支えられ生きていることを毎年伝えています。給食やお家の食事を作ってくれる人がいて、初めて元気に遊んだりできること、身近な具体的な例を挙げる事で、普段元気一杯な子ども達も年2回の本堂でのお話は真剣に耳を傾けてくれています。

当たり前のように食べているものが、色々な方のご縁で成り立っているように、普段の保育の中でも当たり前と思っていたことを見返していく機縁にすることが大切でないのでしょうか。このコロナ禍をただ嘆くのではなく、物事を見る視点について、原点に立ち帰る機会を頂いたと捉え、当たり前を見返し、ともに成長していきたいと思っています。

宗教法人  
利正寺保育園  
(横浜市)  
事務長 渡辺 正法



はい！こちら 真宗会館です

# 駐在日記



駐在からひとこと

写真：真宗会館探訪！

「地階大会議室から見える内庭」

東京教区駐在教導

佐々木 弘明

## 「ヨーグルトを買う」

ここ数年、毎朝ヨーグルトを食べる  
ことが日課になっている。

そのヨーグルトは、役宅から徒歩で  
行くことができるスーパーにお得用パ  
ックがあることを妻が発見し、毎回そ  
こで購入している。

そのスーパーでの出来事。

### <Case1>

1パック購入して帰る。

### <Case2>

売り切れのため、何も買わずにトボ  
トボ帰る。

### <Case3>

スーパーに入り、ヨーグルトの陳列  
棚を見ると、残り1パックがあること  
を確認。小走りで陳列棚に近づく。

そこに人影。手がヨーグルトのパッ  
クに伸びていく。その瞬間がスローモ  
ーションになる。「そのヨーグルト、買  
わないでえー」。私の心の声は届かず、

最後の1パックは買い物かごの中へ。  
何も買わずにトボトボ帰る。

### <Case4>

スーパーに入り、ヨーグルトの陳列  
棚を見ると、残り1パックがあること  
を確認。小走りで陳列棚に近づく。

陳列棚にたどり着き、周囲にヨーグ  
ルトを狙っている人影がないかを確認  
する。誰もいないことを確認し、最後の  
1パックを買い物かごに入れる。

申し訳なさと購入できてよかったと  
いう気持ちが入り交じりながら帰る。

<Case1～4>は、「ヨーグルトを  
購入する」という点で共通した場面で  
の出来事であるが、5、6…とさらに異  
なる状況になることもあるだろう。そ  
ういった状況下で、一喜一憂し、いつも  
揺さぶられ続けている私であることを  
感じた。

ちなみに、最近ヨーグルトの陳列棚  
は以前の2倍に拡張された。

# はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所主事

葦原 宏行

担当：事務全般

教化広報部門（『サンガ』、市民講座など）

好きな大河ドラマ：『青天を衝け』



業務のなかで同朋会運動について学びなおす機会を与えていただいた。

同朋会運動の受け止めが全く持つて不十分であったことを実感するとともに、運動のなかにあるはかり知れない熱量を改めて（そのほんの一部かもしれないが）感じ取った。もちろん深い懺悔にもとづく自己批判のうえに発足した運動であることは言うまでもないが、それでも当時の資料からは躍動感のようなものさえ伝わってくる。当時を知る先輩方から感じた熱量の正体はこれだったのか、と今更ながらに思つたりもした。

先輩宗務役員から「人が育つには人と出あうしかない。出あって感動して人は育つ。感動しろよ」と言われたことがある。実際、たくさんの現場に連れていかれ、時には時代社会の現実、怒りや悲しみに触れ、時には飲めない酒を片手にただ頷くだけで日付が変わるなんてこともあった。いま振り返れば、実に

多くのことを学ばせていただいた気がする。

さて、時代は新型コロナウイルス感染症による混乱のただ中。きっと、この数年間の出来事は自分の人生でも忘れられないものになるだろう。

人と人との交わりを避けるため、自身が担当する業務でも人と会う機会は必要最低限にまで減っている。それでも接点を絶やさないよう、今はリモートを活用した取り組みに専念し、徐々に手応えを感じるようになってきた。

けれど、Zoom で生じるコンマ数秒のタイムラグのたびに思う。本当にこれで伝わっているのだろうか。内容だけではなく、画面越しで伝わる熱量の話。とても不安になる。

みんなが「ヨリアウトコロ」。  
みんなの「デアウトコロ」。  
みんなが「ヨリアウお寺」。  
そして、ココロのヨリドコロ。  
そんな願いを込めて、  
小さい子どもたちからご年配の方まで、



## フードバンク 真宗会館

食材提供いただき  
ありがとうございました。

report 1



「みんなのヨリドコロプロジェクト」の企画として、東京教区のご寺院さんにお供えとしていただきたい食品、お寺で食べきれない食品を募集したところ、こんなに沢山の食品をご寄付いただきました。一番多いのは乾麺類（素麺・うどん・そば）でした。もちろんお供えの菓子箱も沢山頂戴しました。

今回いただきました食材は、練馬区地域文化部協働推進課を通じて、練馬区内にある「子ども食堂」から支援を必要としているご家庭にお渡しさせていただきました。現在各地で有志の方々が子ども食堂を運営され、その数は全国で5000もあるとされています。そしてそのほとんどが、コロナ禍でもお弁当の配布や食材配布など、居場所づくりを工夫して試行錯誤しながらそのつながりを保とうとしています。

地域にあるお寺が、そのような人たちと連携し、その地域の人と繋がることで、お寺との距離が縮まる一つの糸口となることを期待しています。今求められている「ヨリドコロ」とは、集まることだけではなく、お寺から出向くことも必要とされていると思います。

真宗会館があらゆる世代の人達の「ヨリドコロ」となることを目指しています。

今回から、首都圏教化推進本部が真宗会館設立三十周年を機に取り組みを進めていく「みんなのヨリドコロプロジェクト」をご紹介させていただきます。



最新の情報は「みんなのヨリドコロプロジェクト」SNSをご覧ください。

## 4月 敬弔

藤井 玄秀 様

長野5組 淨龍寺 前住職

4月 18日 命終 86歳

田村 晃洋 様

茨城2組 専照寺 住職

4月 24日 命終 78歳

生前のご功労を偲び、  
念仏合掌して哀悼の意を表します。



自坊に戻り、はや2年が過ぎた今年の春。

2年前に卒業した大谷専修学院の濃密だった寮生活での思い出が徐々に薄らいでいくのを感じる。あの頃は「こんな体験、人生でこの先あるものか、絶対に忘れやしないだろう」と高を括っていたが、絶対なんて言葉の不確かさを改めて問われているようだ。

ここ1年間では新型コロナウイルスの蔓延に伴い、リモートで学院の同期と輪読会をすることが増えた。全国から集まつた学院生がネットを通してまた集まることが出来るのは少し物寂しさがあるものの大変便利である。輪読会を行うのが名目であるのだが、皆が集まるつづつい学院時代の話をしてしまう。

ケンカをしたこと、あの先生が言っていたこと、夜中まで寮の喫煙所で話し込んだこと、私を含めそれぞれ薄らいでいく記憶の中で忘れられないものがあるようだ。

そんな中、ひとりが「最近皆さん頭札をし

## 涌 編集員の隨筆



ていますか」と問い合わせてきた。学院では、講堂に入るとき出るとき、食堂に入るとき出るとき、その都度頭礼をしていた。本当に生

活の一部になつていていたと思う。しかしそのように問われ自坊に戻つてからの生活を省みると、少しおざなりになつているように感じる。

東京に戻り、流れるようにではあるが住職に就任させて頂いた。そのことと同時に学院での生活を通して真宗にふれ、この生活と共に生きていたらと思ったことを思い出した。忘れていくことや、おざなりになつていくことがある中、学友やそれぞれの思い出を通して思い出されることもある。大谷専修学院は私にとっていつでも立ち返れる場だ。

過ぎ去りやすい日々の中で疲れたときは一度立ち止まって振り返ることも私の好きなことである。「休み休み」。

(東京1組 光桂寺 内藤 友樹)